

「関数電卓」という新たなジャンルを拓いた fx-1



fx-1

fx-1は四則算以外に三角関数・指数関数・べき乗・開立・開平・自然対数・常用対数・双曲線正弦・余弦・ラジアンと度分秒の変換など、各種関数計算をワンタッチのキー操作で求められるようにした電卓です。fx-1の開発によって関数電卓という新たな電卓ジャンルが生み出されました。fx-1が発表されるまでは、そのような計算機はコンピュータの範疇とされ、価格は100万円以上でした。先行する当社の電子技術力によって、それを軽便な電卓としたのです。

パーソナル用 関数電卓 fx-10

その後、電卓は大幅な技術革新により、カシオミニ

fx-1の仕様

〈主な機能〉
四則算：12桁
記憶：12桁2組
16関数

〈主要素子〉
LSI

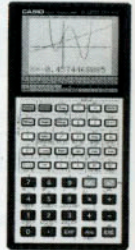
〈寸法・重量〉
幅：240mm
奥行：315mm
高さ：77.5mm
重さ：2.3kg

〈価格〉
325,000円

47年2月 発表



fx-10



fx-7000G

を生みだし、個人が電卓を持つ時代を迎えました。

これと呼応して関数電卓の分野でも、技術開発により、技術者個人が、気軽に買える値段のポケットサイズのfx-10を開発し、関数計算機のパーソナル時代に先鞭をつけました。価格はfx-1の13分の1の2万4,800円で、形状・重さとも下表に示すような画期的な商品でした。

そしてさらに、その後の技術革新によって、コンパクト化、低価格化をはかり、fxシリーズ商品は技術者必携の関数電卓となって、今日に至っています。そしてあらゆる国において「関数電卓はカシオ」という観念が定着されるまでになっています。

関数電卓の発表と変遷

発表	機種	機能	寸法・重量
昭和47年2月	fx-1	16関数、卓上型	240×315×77.5mm, 2.3kg
49年5月	fx-10	10関数、ポケット型	95×150×33.0mm, 330g
51年5月	fx-19	19関数、分数機能付	90×150×29.5mm, 255g
12月	fx-1000	30関数、液晶表示式	67×128×14.0mm, 93g
53年6月	fx-48	32関数、名刺サイズ	55×91×3.9mm, 39g
54年3月	fx-502P	51関数、プログラム付	41×71×9.6mm, 103g
60年8月	fx-7000G	82関数、グラフ表示付	83×167×14.0mm, 155g
62年7月	fx-5000F	105関数、128種公式内蔵	72×131×9.2mm, 93g
平成2年9月	fx-5500L	123関数、ライブラリー付	73×141×9.9mm, 92g
3年12月	fx-7700G	169関数、グラフ表示付	81×172×15.6mm, 179g